

学識経験者の意見について

1. 点検評価委員会開催日、時間及び場所

令和7年9月12日（金） 10時00分から
市役所別館 3階大ホール

2. 主な意見

（1）いじめの根絶について

基本施策：自他を尊重し、思いやりと助け合う心の育成（点検・評価報告書 18頁～22頁）

子どもいじめ防止対策事業について低学年のいじめが全国的に増えているが、低学年の児童はいじめを理解できていなかったり、小さい子どもほど発達のばらつきが出やすかったりするので、そのようなこともいじめにつながりかねないと保護者に伝え、相談につながるとよいと感じた。スクールカウンセラーへの相談件数が減っているという話だったが、南砺市は保護者や子どもに対する支援が手厚いく、様々なところに相談の窓口が設けられているため学校での相談が減っているのではないかと。

（2）部活動指導員の配置について

基本施策：健やかな体の育成（点検・評価報告書 28頁～30頁）

スポーツエキスパートの派遣については記載があるが、今後文化系にも力を入れてほしい。文化の中でも吹奏楽は割と注目を浴びているが美術分野は個人的な活動が多いこともあり、取り上げられることが少ないように感じる。指導者になり得る芸術家、作家が南砺市には多いのでそういった人材を巻き込んで考えてみてはどうか。

（3）チーム担任制について

基本施策：学校教育を支える環境の整備（点検・評価報告書 31頁～34頁）

現在の学校現場は、一学年で一クラスほどの人数しかいない。チーム担任制により主になって動く先生が一人いれば、他の先生が一緒に見ているので手助けすることもでき、その科目の得意な教員に教えられた方が児童生徒も楽しく授業を受けられる。複数の目で子どもたちを見ることで、子どもたちの様々な側面が見え、小規模校では学年を超えて関係性を築けている。児童生徒たちも得意な先生と不得意な先生がいる。チーム担任制という制度を子どもたちも理解していれば、悩みがあっても相談しやすく、教員にとっても児童生徒にとっても良い制度だと感じる。

（４）スクールバスについて

基本施策：学校教育を支える環境の整備（点検・評価報告書 ３１頁～３４頁）

部活動等のために別の学校に行きたいが親の送迎が難しいという声もよく聞こえる。学校間を行き来するバスなど子どもだけでも移動できる手段ができないか。また、いおう教室に通っている子どもたちは自力で通うか保護者の送迎かだと思うが、今後スクールバスの運行等は考えているのか。

（５）図書館のイベントについて

基本施策：生涯学習活動の推進（点検・評価報告書 ３５頁～４０頁）

一度イベントに参加した人はその後も定期的に参加しているが、新規の利用者が少ないのは市民に広く知れ渡っていないのではないかと感じる。周知活動にさらに力を入れてほしい。

（６）親学び講座について

基本施策：青少年健全育成活動への支援（点検・評価報告書 ４１頁～４２頁）

青少年育成講演会開催回数は８支部中半分の実施が目標値であり、これまでの推移をみていると２回のことが多いが、今後目標値を下げるのか、どうするのが良いか疑問に感じる。親学び講座が昔からあるが最近が開催されているのか。今まで行っていたが途中からなくなった地域もあるように思う。講師がなかなか見つからなくなっていること、誰でも講師ができるわけではないことが原因の一つではないかと考える。子どもの教育を行う上で、親も教育されるべきだと実感しており、今とは違う形でも親が学べるような講座を開催していただきたい。

（７）『こどもの権利』推進について

基本施策：未来をひらく子育て支援（点検・評価報告書 ５１頁～５５頁）

人権委員会でも昨年、小中学校や保育園に人形劇をしに行くなどの活動実績があり、ノウハウもあるため、交流・連携していくともう一段階上の段階を目指せるかと思う。

（８）市民の芸術活動への意識付けについて

基本施策：文化芸術創造プランの推進（点検・評価報告書 ６７頁～７０頁）

南砺市には利賀の舞台芸術やスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドなど音楽や芸術を通じて地域を活気づける取り組みが継続的に行われており大変評価が高い。特に利賀の舞台芸術は今年５０周年ということもありメディアに取り上げられ、日本全国、世界的にも注目を浴びている。地域に根付いた文化芸術活動を、プロの作家や職人の活動も交えて市民全体にさらに広めていく取り組みを期待している。

以上